



発熱、コロナ？ 発熱を伴う泌尿器科疾患

2020年、全世界で新型コロナ肺炎が猛威を振るっています。新型コロナ肺炎は、呼吸困難とともに高熱を起こします。しかし発熱を伴う疾患は肺炎だけではありません。尿路感染症でも高熱を伴うことがあります。排尿症状を伴う発熱をきたした時には、腎臓や前立腺又は精巣上体などに細菌感染をきたしている可能性があります。特に糖尿病、尿路結石、前立腺肥大症など、尿路感染を起こしやすい疾患が元々ある場合には重症化しやすく、時には命に関わる場合もあります。

【女性の場合】

①腎盂腎炎

女性では、男性に比べて尿道が短く、大腸菌などの細菌が尿道口から膀胱に侵入し、膀胱炎を起こします。ただし、膀胱炎だけでは高熱は起こりません。さらに細菌が尿管をさかのぼって腎臓まで達することで腎盂腎炎が起こります。頻尿、排尿痛、残尿感、下腹部痛など膀胱炎症状に加え（自覚しない場合もあります）、発熱、全身倦怠感、悪寒、嘔吐、腰背部痛などの症状が認められます。

【男性の場合】

②急性前立腺炎

男性では、細菌が前立腺に侵入して炎症を起こすことがあります。男性が腎盂腎炎になることは少なく、排尿症状を伴う発熱を認める場合には、急性細菌性前立腺炎である可能性が高いと考えられます。発熱、全身倦怠感、悪寒などの全身症状と、排尿痛、頻尿、排尿困難、下腹部痛などの排尿症状をきたします。腫大した前立腺のために排尿困難や尿閉（膀胱に充満している尿を排尿できない状態）をきたすこともあります。

③精巣上体炎（副睾丸炎）

男性の精巣の横にある精巣上体（副睾丸）に炎症が起こって腫れることです。時に鶏卵大に腫れて痛みと発熱を伴います。上記の急性前立腺炎と合併することがあります。

【診断と治療】

腎盂腎炎や急性前立腺炎では、尿検査で混濁尿（膿尿/細菌尿）が認められます。

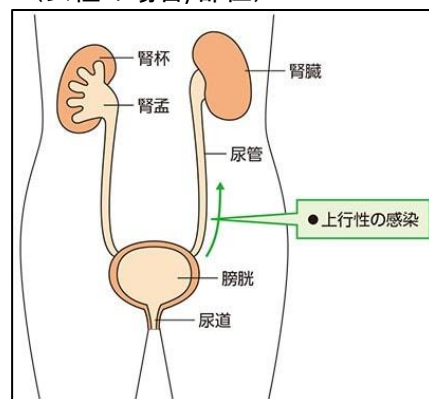
また、血液検査にて白血球の増加や、炎症反応が見られます。これらのデータと症状、所見から診断します。

治療は、抗生剤（抗菌剤）投与です。軽症例では外来治療が可能ですが、高齢者や糖尿病などがある方、重症例では入院して抗生剤の点滴治療が必要になります。

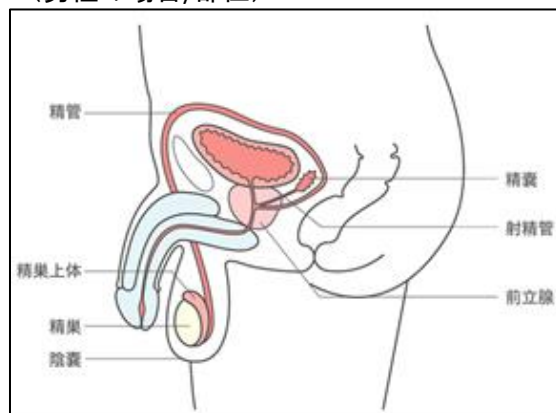


泌尿器科部長
奥田 喜啓

（女性の場合/部位）



（男性の場合/部位）



☆2020年5月現在、当院では、新型コロナウイルス感染症を見極めるために、発熱されている方は、有熱外来を受診して頂いております。

尿路感染症による発熱が疑われる場合でも、有熱外来を受診して頂くことがありますので、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

お問い合わせ先

泌尿器科受付：078-672-2610（外線）
8-63-22610（内線）